

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	職員研修に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	矢ノ目 健二			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防力維持のため、計画的に職員研修を実施していく必要がある。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	消防力維持のため、計画的に職員研修を実施していく必要がある。
②①に基づく取り組み結果	今後数年間における消防職員の退職者増加を勘案しつつ、研修派遣者を選考し、人材育成に取り組めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防吏員	意図(対象をどうするのか)	複雑多様化する消防業務に対応するため、高度な専門的知識や技術を修得する。
②事務事業の概要	消防職員として業務遂行上必要な専門知識及び技能を習得するため、消防大学校等の各種研修所に派遣する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害件数の増加、複雑多様化する災害への対応や高度な救急処置が要求され、専門的な知識、技術を持つ職員の養成により安心して暮らせる消防体制が望まれている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	消防職員29人を研修派遣し、知識と技能の向上を図った。					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 派遣者数/派遣計画者数	100	95	100	%	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	4,603	3,675	金額(千円)	内容	3,844	
国支出金(千円)			2,480	消防学校等負担金		
県支出金(千円)			764	技能講習等負担金		
市債その他(千円)			421	旅費		
一般財源(千円)	4,603	3,675	10	報償費	3,844	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	災害の増加及び複雑多様化に対応するため、継続的に知識及び技術の修得が必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	専門的な知識や技術は、外部機関による取得以外に方法はなく、救急救助体制の確立には必要不可欠である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防車両更新事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	矢ノ目 健二			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速かつ的確な活動が出来る車両を更新整備する。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速かつ、的確な活動ができる車両を更新整備する。
②①に基づく取組み結果	検討会を開催し、現場の意見を取り入れながら、本市に適した車両及び資機材を決定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防本部及び消防署の管理する車両	意図(対象をどうするのか)	車両更新計画に基づき、車両を更新する。
②事務事業の概要	消防活動を維持するために必要な、消防用自動車及び車両積載品を更新整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	複雑多様化する災害が増えていることから、安全に暮らせる社会システムへの要望が高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	消防ポンプ自動車2台を購入した。						
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠	
	i	車両更新率	100	100	100	%	車両更新計画
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	38,375	93,481	金額(千円)	内容	8,522		
国支出金(千円)	13,109	23,929	92,016	備品購入費	0		
県支出金(千円)	0	0	1,413	手数料(AVM移設他)	0		
市債その他(千円)	21,600	61,200	17	保険料(自賠責保険)	0		
一般財源(千円)	3,666	8,352	35	公課費(重量税)	8,522		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	鎌ヶ谷市消防用自動車更新計画に基づき更新しているが、消防力の整備指針改正等を踏まえ、本市の車両台数、更新計画を継続的に検討する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民の安全安心のため消防用自動車の更新は、継続していかなければならない。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	中央消防署及び鎌ヶ谷消防署の消防ポンプ自動車を更新した。	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額	決算額				
②計画に対する事業実績	完了	94,530	94,530	当初	94,530	93,481	H29からの繰越	0
				H28⇒29繰越	0		現年分	93,481
				補正	0			
③達成状況	完了			流用・充当	0			
④未完了・非着手の理由		令和元年度への繰越額(単位:千円)		0				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	中央消防署改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	矢ノ目 健二			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	実施設計に基づき、老朽化した中央消防署外壁等の改修工事を実施する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	無し
②①に基づく取り組み結果	実施設計に基づき、中央消防署の外壁等の改修工事を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	中央消防署庁舎	意図(対象をどうするのか)	外壁等の改修
②事務事業の概要	竣工から48年経過(昭和45年竣工)した中央消防署の外壁等を改修することにより、建物の長寿命化を図るとともに、災害活動拠点としての機能を確保する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害対応の中核を担う中央消防署の改修を行うことにより、災害活動拠点としての機能を確保し、市民が望んでいる消防力の強化を図ることができる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	中央消防署の外壁等の改修工事が完了した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	実施設計完了率	0	100	0	%	業務取得
	ii	改修工事完了率	0	0	100	%	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	3,340	34,167	金額(千円)	内容	0		
国支出金(千円)			34,167	工事請負費			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)		24,300					
一般財源(千円)	3,340	9,867					

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	外壁等の改修工事が完了した。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	外壁等の改修工事が完了し、事業の全てが完了したため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画		平成30年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	外壁等の改修工事が完了した。	36,986	34,167	当初	32,400	H29からの繰越	0
				H28⇒29繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	34,167
④未完了・非着手の理由				流用・充当	1,767		
		令和元年度への繰越額(単位:千円)				0	

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	中央消防署非常用自家発電設備更新事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	矢ノ目 健二			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	実施設計に基づき、老朽化した中央消防署非常用自家発電設備の更新工事を実施する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	無し
②①に基づく取り組み結果	実施設計に基づき、中央消防署の非常用自家発電設備の更新工事を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	中央消防署非常用自家発電設備	意図(対象をどうするのか)	非常用自家発電設備の更新
②事務事業の概要	設置から37年が経過した中央消防署の非常用自家発電設備を更新することにより、災害活動拠点としての機能を確保する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害対応の中核を担う中央消防署の非常用自家発電設備の更新を行うことにより、災害活動拠点としての機能を確保し、市民が望んでいる消防力の強化を図ることができる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	中央消防署の非常用自家発電設備の更新工事が完了した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	実施設計完了率	0	100	0	%	業務取得
	ii	更新工事完了率	0	0	100	%	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	338	10,814	金額(千円)	内容	0		
国支出金(千円)			10,814	工事請負費			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)		8,100					
一般財源(千円)	338	2,714			0		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	非常用自家発電設備の更新工事が完了した。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	非常用自家発電設備の更新工事が完了し、事業の全てが完了したため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画		平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	非常用自家発電設備の更新工事が完了した。	13,110	10,833	当初	12,600	10,814	H29からの繰越	0
				H28⇒29繰越			現年分	10,814
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-1,767			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)				0		